

第8回学校運営協議会 議事録

(教頭)

ただ今から、平成30年度第8回白山高等学校学校運営協議会を開催いたします。はじめに、白山高等学校長の赤塚が御挨拶申し上げます。

(校長)

みなさん、こんばんは。本日は御多忙の中、またお仕事等でお疲れのところ、第8回学校運営協議会に御出席いただきましてありがとうございます。御参加の皆様方におかれましては、日頃より本校の教育活動に関しまして、多大なる御理解と御協力をいただき、まことにありがとうございます。

さて、本校では、先週の金曜日、3月1日なんですけども、卒業式を挙行させていただきました。3年生85名がそろって卒業ということで、非常に厳粛な雰囲気の中で式典が行えたかなと、喜んでおります。進路につきましても、ほとんどの者は就職あるいは進学と行き先が決まっています、あとは3月中に若干名が受験を残しているという状況になっております。前回このように大人数で集まっていたのは10月31日で、中間評価をしていただきました。11月以降は各地域の文化祭にいろんな部活動が参加させていただいたりとか、あるいは学校運営協議会とか活性化協議会の取組をベンチマークさせてほしいと県外から視察というのがずいぶん来られたかなと思います。そういったところが例年と違う動きかと思っております。本日は資料に基づいてマネジメントシートの進捗状況を説明させていただき、また、11月には文化祭、1月には本日もお越しいただいております藤田さんを講師としてお願いしたこんにゃく講習会を御覧いただきましたので、そこらへんの様子も踏まえて期末の評価という位置づけで御協議の方をお願いしたいと思っております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

(教頭)

ありがとうございました。続きまして、三重県教育委員会の指導主事 岩崎先生に御挨拶をいただきます。

(岩崎指導主事)

みなさん、こんばんは。三重県教育委員会高校教育課の岩崎です。委員の皆様、また白山高校の先生方、日頃より白山高校生徒の教育活動に御尽力いただきまして誠にありがとうございます。校長先生もおっしゃられました通り、3年生が3月1日に卒業しました。たまたま家に帰ってテレビを見ていたら、ちょうど三重テレビで放送されているところでした、非常に注目を浴びていると感じましたし、日頃より地域の方々に支えられて生徒たちが幸せな環境で卒業を迎えられたんだというのがひしひしと伝わってきました。私の振り返ると、ちょうど1年前、学年主任及び担任として、稲生高校の3年生を送り出したなということで、その時のことを考えると、先生方はおそらく、ほっとされているとともに、寂しいなど感じられているでしょうし、また、こういう場で地域の方にいろいろサポートいただいているというのが、本当に特別なことなんだと感じられます。県におりますと、数字の仕事ばかりで、来年度の話をしている時期なんですけども、新しく1年生を迎える準備をしているところなんです。非常に残念な話なんです、来年の1年生は人数が減ってきています。県内で13クラス減るといいます。13クラスある学校は県内になくて、多くても10クラスだったりするのですが、それを1つ消しても足りないぐらいのクラス数が減少しています。それが次の4月だけなのかというと、そうではなく、その次の年も減っていきますし、その次の年もまたすごく減っていくんです。この流れというのは、簡単には変えられるものではありません。今、赤ちゃんがいっぱい生まれても、15年後にならないと変わらないということになりま

す。その中において、学校を中心として、まだまだ生徒はいるわけですから、こういった教育活動で子どもたちの未来を切り開いていく力を身に付けさせるかということが一番の課題になってきますので、今後とも、学校の先生方のためにはぜひともお力を貸していただきまして、ぜひとも生徒のためにこれからも一緒に頑張っていたきたいと思えます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(教頭)

どうもありがとうございました。それでは第8回学校運営協議会に入らせていただきます。本日の議長についてですが、吉田会長にお願いしたいと思えますがよろしいでしょうか。特に御異議なければよろしくお願いいたします。それでは、吉田会長、よろしくお願いいたします。

(吉田会長)

みなさん、こんばんは。本日はお疲れのところ、お集まりいただきありがとうございます。というか、御無沙汰しております。なかなか仕事の都合で顔が出せなかったんですけども、本年度最後の学校運営協議会ということで、有意義なものにできるようよろしくお願いいたします。

はじめに、報告事項について、事務局、よろしくお願いいたします。

(教頭)

第8回の学校運営協議会を始めるにあたって、第5回に第2～4回までの会議概要について、確認をさせていただきましたが、本日は、それ以降に開催した各部会、テーマ別の会議概要について、確認させていただきます。お手許の資料にある第6回の会議概要を御覧ください。11月10日土曜日の文化祭のときについて、簡単に御説明をさせていただきます。校長からの挨拶にもありますように、今年は地域の方が多かったということです。このときの会議には、生徒会顧問と生徒会本部役員の皆さんも参加いたしました。今年は「日本一の下克上」というテーマで行いました。今年の文化祭は地域から昨年度に比べて2倍の人が御来校いただきました。白山中学校からも、昨年度2名のところ9名来ていただきました。反省点としては、生徒会があげているのは、食事してもらうための長机がもっとあった方がよかったのでは、とのことでした。他の使い道があったので、在庫が不足して御迷惑をおかけしたようです。見所については昨年度よりあったということです。ごみについては、捨てられているごみが少なかったと挙げていただきました。ごみが減った理由ということで、陸上競技部の1年生に1時間おきに清掃をしてくれました。また、サッカー部もトイレ掃除をしてくれました。部活生が積極的に校内美化に努めてくれました。今年、弓道部が演舞を開催し、非常に関心が高かったのではないかと思います。勘違いかと思うのですが、文化祭に入場するのに、チケットが必要で、そのチケットが当日販売と思われていた方がいたようです。違うんですが。数日前に、総務部の方にも電話がありました。夏の甲子園の折り鶴を体育館に飾りました。それから、吹奏楽部がいつもは顧問も演奏しないんですが、文化祭のときだけは演奏をしておりました。人権サークルの大壁画は、そのあと、町内の人権関係のイベントでも飾らせていただきました。それから、模擬店のチケットを、入場するためのチケットと勘違いされていた方がいたようです。入場するには、特にチケットはいりません。逆にいうと、地域限定ですので、だれでも入ってこれるという文化祭ではありませんので。どこかの学校さんがそうしていたのかもしれませんが。ごみのことでは、拾っている生徒がいたということをお知らせしております。苦言というか、学校へのお叱りだったんですが、廊下はごみが少なかったけど、トイレはごみが多かったということです。来年の改善点かと思えますが、パンフレットの図では、どこに何があるのかわからないという声です。パンフレットの改善について、御提言いただいたのではないかと思います。それから、模擬店の生徒がエプロンをしておらず、

制服のままではどうなんだというお声もいただきました。パンフレットについては、改善の余地は十分にあるかと思しますので、来年度検討していただけるのではないかと思います。また、展示物の立て看板が少なかったということで、どこに何があるかパンフレットも見にくくわかりにくかったかと思います。これが文化祭についてです。

(2) 地域と連携した取組では、中間評価をさせていただきました。昨年度よりもオファーが増えたので、参加している行事が多くなっているように感じます、ということで、本当に年を増すごとにいろいろとお声がけをしていただいて、出かけているところがあります。ですが、吹奏楽部と茶道部、特に茶道部についてはなかなか部員の数確保できず、男子の運動部は一定数部員がいるんですが、外へ出かける部活動としては厳しいところがあったのですが、今年はほかの運動部も外へ出て行っているのが見受けられます。年々、いろんなところからお声がけいただいているかと思います。白山フランクのことです。これが大変好評でして、後ほどにも出てまいります、リバーパーク真見でも販売をさせていただきました。連絡事項では次回の日程をあげました。よろしくお願いします。

(吉田会長)

ありがとうございました。何か御意見等がありますか。特によろしいですか。

なければ、その他は何かございませんか。

なければ、次の協議事項に入らせていただきます。平成30年度地域と連携した白山高等学校の取組についてお願いします。

(教頭)

さきほど校長先生の御挨拶にもございましたが、第7回の地域交流部会について、御意見やご感想をいただきたいと思います。第7回は本協議会の委員であり、「藤田こんにやく」様を経営されている藤田委員の御指導による「こんにやく講習会」でした。昨年度よりしていただいております。当日、御見学いただいた委員の方より、御発言をいただければ幸いです。

(吉田会長)

何か御意見等ございますか。まずは藤田さんの方から。

(藤田さん)

私はこれにもう3,4回おじゃましています。1年ごとに、すごく生徒が一生懸命やってくれます。すごく和やかな雰囲気できて、今年は男の子がほとんどで女の子は2人くらいだったかな。その中で、男の子が一生懸命してくれるんですよ。すごい雰囲気が良くて、たまたまうちの下の娘が、その子どもも高校生なんですけども、連れてきたんですよ。そしたら「すごくかわいいなあ。男の子ってあんなにおとなしいん？」という感じで…。私も5,6年前に久居農林高校へ授業に行きました。そのときは本当に荒れていて、こんにやくしていても、半分以下はずっとぐるぐると道具で遊んだり、話していたり、興味のある子は5,6人程度でした。息子も跡継ぎしているんで、いっぺん行きなよと言って行かせたんです。私は陸上をしていたのですが、たまたまその校長先生が三重県陸協の校長先生で、「もういっぺん来てくれ」と頼まれたんですが、もうあそこは二度と行かんというてました。それから白山高校へおじゃまするんですが、だんだんと和やかな感じで、子ども自体が変わったなという感じです。私は美杉中学校も行くのですが、その美杉中学校の男の子が「僕将来調理の仕事就きたい」っていうんです。職場体験も来てくれて「僕こういうことするのが好きや」って。勉強目指していく子もいるけども、そういう違う方面で、自分の目的もってやっていける子もいたんだなと思いました。今年そういう感じを受けました。そのあ

とに白山高校へ来て、すごくよかったです。こんにゃくを作るときに、形を丸くしたりハートにした子もいました。自分独特のやり方を「なんでもいいからやってもいいよ」というとすごく興味をもって喜んでやってくれました。私は、こんにゃくを作ること教えたけれど、こんにゃくの料理ってこんなのあるんだよってことを教えたかったので、こんにゃくのてんぷらとかこんにゃくの串揚げを見せました。例えば串揚げでも、こんにゃく、鶏肉、こんにゃく、鶏肉とするんですよ。刺していくところを黙って見ていたんですが、つくつくっと刺してしまう子と長く刺している子といました。そこで、「あなたたちが買うんだったら、どっち買いますか？」と聞くと「長い」と答えたので「じゃあ長く刺そうか」というと「僕ももっと大きいのが食べたい」と言って本当に和やかな雰囲気できました。こんな料理もあるんだなって関心もってもらったと思います。そういうのをもっと広めていきたいですし、今年は天ぷらと串揚げ、去年はこんにゃくのドーナツをしました。毎年私も勉強して、いろんな食べ方を知ってもらわないと、こんにゃくってなかなか売れませんか。おでんとか煮物とかそんなだけですやんか。伊勢ではこんにゃく羊羹とか息子が作ったのを売ったりしているんですよ。そんないろんなことを若い子に知ってもらいたいので、私としても。いつでも言ってもらったら、またおじゃまします。

(吉田会長)

ありがとうございます。貴重な話でした。年々良くなってきているみたいですが、生徒が変わられたのか学校が変わられたのか、はたまたまたまこの年の子が良かったのか…

(岩崎さん)

よろしい？私は去年初めてこんにゃく講習会を見せていただいて、今年2回目だったんですが、藤田さんが言われたように去年は若干そわそわしている子もいたんですが、今年は非常に男が大多数の中で、一生懸命やっている姿に関心しました。以前は、なかなか荒れた時代もありましたけど、最近は白山高校も、多くの夢を達成して甲子園出場したり、夢を叶えたなかでの今年だったんですけども、高校生たちが「甲子園出た」ということが選手たちだけでなく、生徒たちの誇りになったのではないかと思います。今年の生徒には表れていると思います。これからも、こんにゃく講習というのは山間部の高校にあった講習だと思いますし、私も小さいころは家でもちつきをやるとこんにゃくを作るというのが習慣でしたので、芋からこんにゃくができることをよく覚えているんですが、今はミキサーというものがあるので便利になっていますが、そういった部分を学んでほしい。どこで実がなるんや？芋でできているんだぞ、芋の歴史は…など講習を通じてこんにゃくというものがどうやってできるのか知ってもらいたいと思います。

(藤田さん)

白山高校の生徒さんが、一人でしたけど、こんにゃく講習に行ったとき「こんにちは～」とあいさつをしてくれた。美杉中の子は職場体験で来てくれると「すみません」「こんにちは」と言ってくれる。そういう方向に白山高校の生徒さんもきてくれていると感じました。すごく良くなったと思います。それぐらいの年だと「年頃」なので、言わないのかと思っているが、そんな風に言ってもらえるとこちらも「行ってよかったなあ」と思います。中学生は手振ってくれますからね。

(吉田会長)

生徒さんの余裕っていうのはこの1年で変わられたのでしょうか。先生方から見て、この1年間春から見てどう変わったのかお尋ねしたいんですが。

(濱地先生)

私もここに来て4年目ですが、年々良くなってきているのは感じています。授業をしていますが、私は商業科なので3組しか見ないのですが、その中でも、検定に取り組む姿勢であるとか、そういった目標を設定してそれに行動するというのが随分とできてきているように感じています。今年から生徒指導の方に入っているんですが、朝の挨拶運動を校門で指導しているんですが、随分と返してくれる生徒が増えたように感じます。なるべく人を多くしようということもあって「挨拶週間」を作り、人の目を増やしながらっていうところを取組として入れてみたんですけど、いろんな先生方から「挨拶する子が増えたよね」って言ってもらえるようになりました。ただ、まだ挨拶の仕方というのが、社会に出たときまづいだろうという感じです。ポケットに手突っ込んだままとか、そういった生徒もいますので。今度はそういったところを「それではダメだよ。もうワンランクあげようよ。」という話をしていこうと考えています。そういう話ができるようになってきたのは変化かなと思います。いい意味でも元気な子がかなり増えてきたのかなと思っております。

(吉田会長)

そういった体験を通じて、生徒が変わってきたのかもしれない。甲子園出場を含めて、生徒が自信をもったように思います。あんまり使いたくないんですけども、ちょっと脱ゆとりをしたのかなと感じております。良かったのか悪かったのかわかりませんが、我々はちょうどゆとり世代のど真ん中で普通な仕事もなかなか続かなかったりとか、挨拶が会社の中でもできない人もいます。年頃の若い子が挨拶できるという・・・でもやっぱり、それは気持ちがあるから声が出るのであって、気持ちがなければ声は出ないかと思えます。

(田中先生)

年々しっかりしていますね。いろんな教育改革が行われてきたのかと思います。生活に課題を抱えている生徒が増えてきているのも事実ですし、貧富の格差があるなど難しい状況の中で、白山高校生は明るく前向きに生活できるのは素晴らしいことだと思います。

(吉田会長)

白山高校の先生は褒めてくれるんですよ、生徒を。我々が子どものときは鉄拳制裁あり！と言う感じでしたが。岐阜の私立高校の本を読みました。決勝には行くんですけども、優勝できない高校の話です。決勝戦で相手の愛媛の高校が、監督も選手も笑っているんです。笑っている中で、優勝した。その監督さんもそれに気がついて「笑おう」と思い、次の年、笑って優勝したという話でした。やはり、生徒さんの自信をもたせる、余裕をもたせることが非常に大事になってくる。それが今回、一連の流れで、生徒さんにすごくマッチしたのかなと思います。どうですかね、1年間見てきて。

(校長)

そうですね。自信のない子がたくさん入ってきているのが印象としてありました。中学校のときになかなか勉強についていけなかったとか部活動も中心になってできなかったとかいう生徒がいてるんですけども、本当に先生方が一人ひとりを丁寧にみているんです。声かけをしながら、家庭の状況も様々ありますので。そういったところで褒めたりとか、できる体験というのを、わりと積極的に取り入れていくことが積み重なってきて、今回のいろんな成果となって表れてきているのかなと感じます。

(西村先生)

講習会に参加させていただいた感想です。何回か出ていますけども、生徒が本当に最後の最後まで精一杯取り組んでいるところに感心しました。藤田さんが、生徒一人ひとりに声をかけてもらって、興味関心

をもたせるように、惹きつけるような言葉をかけてもらっていたこと、それから、先生方もうまいこと声をかけてもらっているところがすごく大事なんじゃないかなと思いました。藤田さんがはじめに話されて、子どもらに準備させていたら、あんな風にはできないのではないのでしょうか。事前の打ち合わせもしてもらっているとは思いますが、そこらへんを上手にしているのではないかなと思いました。こういった体験というのは、すごく大事だと思います。中学校でも3日間の職場体験学習をしていますが、体験することによって「仕事にこんな面白さがあったんだ」「こんな楽しさや大変さがあるんやな」というところに気づいてほしいです。3日間で何事にも気づけないこともあるかと思いますが、こういった体験を重視されているのは、大切なことだと思います。私もこんにやく作りを初めて見せてもらい、串揚げや天ぷらもいただいたんですが、生徒が「これどうぞ食べてください」という声をかけていただいたのがすごく・・・周りにも気づかいており、いいなあと感じました。ありがとうございました。

(藤田さん)

自信をもっていると思います。今回の話にしても。野球でこれだけみんなの目が「白山高校」に向いたので、みんなもやっぱり野球部じゃなくても、「この高校生や」と意識したのではないのでしょうか。本当に一生懸命取り組んでくれました。そこらへんで話し込んでいる子もおりませんでした。みんなで一緒になってやってくれました。「こんなこと家では全然しないけど、面白い」と言ってくれた子もいました。娘も「かわいいよな」という感じがしたわと言っていました。成長された感じがします。

(吉田会長)

この一連の流れも踏まえて、成功した飛躍の年だったのかなと感じます。来年度が大変ですね(笑)
それでは協議事項(1)平成30年度学校マネジメントシートについてお願いします。

(教頭)

では、資料として、本年度、白山高校が地域連携を推進していくなかで実施した、行事や部活動等の取組をまとめさせていただきました。ここでは、主なものを取り上げ、御報告いたします。
例年と違うところでは、5月5日のリバーパーク真見での白山フランクの販売です。活性化協議会の委員の寺井先生の方からご紹介していただきました。6月10日はいつもやっています、南家城地区クリーン作戦いわゆるごみ拾いなんですけど、天候不順のため今年中止となりました。8月11日は甲子園に行きましたよということで、写真を2枚つけさせていただきました。昨年度から始めた、白山市民会館でのキッズ学習支援ボランティアに、8月20日から24日で参加しました。人権サークル以外にもたくさんクラブの生徒も参加していただきました。非常に谷館長からもお褒めの言葉をいただきました。8月27、28日に慰問の演奏会をしました。確か昨年度からだったと思います。10月19日です。このあたりから3年生の総合的な学習の時間で菊を作っておりまして、その配付をしました。そこで岩崎先生にも御協力いただき、県庁のに入ったところのど真ん中と、教育長室の2か所に置かせていただきました。11月4日です。場所は総合文化センターで、人権サークルが夏休みのキッズ学習支援ボランティアのことを発表し、県全体への発信をしました。11月18日は家城地区の文化祭で美杉中学校と合同演奏会を行いました。このあたりで、美杉地区のいろんなところへ吹奏楽部が出ていきました。本年度は夏からのご縁もあったかと思います。秋の、リバーパーク真美での白山フランクの販売。昨年度からお声がけいただきました、上佐田地区の文化祭にて生徒会の方が参加させていただきました。1月23日ですが、これも活性化協議会の寺井先生の方からの御紹介で、行政相談員をされている方に卒業後に地域の諸活動への参加意識を高めるための講演会をしていただきました。先ほどから話題になっているこん

にやく講習会を1月25日に開催しました。例年とは違う点について主に説明させていただきました。よろしく願いいたします。

(吉田会長)

御意見等いかがでしょうか。

(校長)

ちょっとだけ補足しますと、例年より地域連携のニーズが高まって、随分数も増えました。参加する部活動も、これまでは吹奏楽部や商業部とか茶道部と限られていたんですけども、野球部が参加したりだとか、ほかの部活動も参加しています。そんな感じで回数も増えたとし、参加する生徒も増えてきたと。それが大きな特徴であり、嬉しいことかなと思っています。ただ、正直に言っていっぱいいっぱいになってきているところがあって、スケジュールをどうやって調整するかな？という状態になっていっています。そこらあたりも、学校では整理しながらできたらなあと思うところでもあります。

(吉田会長)

嬉しい悲鳴と捉えてよろしいでしょうかね。

(校長)

重なってくると大変ですけどね。何もないときはないんですが。10月、11月は文化祭が集中しますので、少し見て次のところへ行くとなると少し申し訳ないです。ありがたいとは思っております。

(吉田会長)

ひとつ林先生に聞きたいのですが、来年度は合同応援ももっと注目されるかと思うのですが、地元の方と早いうちから練習したりとか、何か考えていらっしゃることはあるんですか。

(林)

今年の夏にJazzBandHAKUSANさんから、野球応援用で白山高校の生徒のパートに合わせた楽譜をいただきまして、また新しい曲を交えて、皆さんの知っている名探偵コナンのオリジナルのソングを演奏予定です。なかなか少人数でふけるものがなかったですが、それをせっかく作っていただいたので、パートを変えて、JazzBandさんもこれたら来ていただきつつ、やろうかなと考えております。また白山中学校さん、美杉中学校さんには毎年参加していただいているので、継続してまた応援来れるときに来ていただけたらと思っております。

(吉田会長)

少し気になったもので…。あと、よろしいでしょうか。

(小西先生)

1つ補足をよろしいでしょうか。2月20日に進路指導部で商工会さんとタイアップして、地元企業さんを14社お招きして、1年生に話を聞かせるという企画を行いました。多くの企業さんが「真剣に聞いてくれた」とのことで、好評のうちに終わりました。

(教頭)

津市の商工会があって・・・活性化協議会の青山事務局長のご縁もあってのことです。

(吉田会長)

ありがとうございます。次年度の取組に活かしていただければと思います。

それでは、協議事項(2)平成30年度学校マネジメントシートについて、お願いします。

(教頭)

ここが本日の会議のメインとなります。今年度も年度末となりましたので、委員の皆様には学校評価について御意見等をいただくこととなります。本校の「学校マネジメントシート」は年度当初に御承認いただいたように「地域を愛する若者を育成し、地域の活性化に貢献する学校」を目指す学校像としています。その実現のために、3つの「中長期的な重点目標」を設定しております。それが中期ビジョンとなります。また、「本年度の行動計画」として、それぞれ「取組内容と指標」を策定し、取り組んでまいりましたが、年度末を迎えましたので、御意見等をいただきながら、最終的な「学校マネジメントシート」を策定していきたいと思っております。その後、再度、学校で整理をして、白山高校のホームページにおいて、公開する予定です。

それでは、平成30年度学校マネジメントシートについて御提案させていただきます。「4 本年度の行動計画と評価」を御覧ください。真ん中程に「取組内容・指標」があります。これが本年度の行動計画の内容と評価指標となります。そして、その右側にあるのが、本年度の自己評価結果です。その下の方にあるのが、改善課題となります。(2)の学校運営等も、(1)の教育活動と同じような構成となっています。

それでは、(1)教育活動について順次説明させていただきます。確かな学力と規範意識の育成について(1)基礎学力を向上させるということで「ワンウィークトライアル」を活用した授業をすとしてしています。活動指標は授業実施回数10回以上で成果は右の通りとなります。(国語6回、数学12回、英語9回)成果指標は基礎力診断テストの学習到達度ゾーンを30%以上の割合で1ゾーンあげるということですが、2年生が少なく27%ということで成果指標の目標値までは届かなかったということです。

(2)進路関係です。週末課題の提出についてですが、結果は10回提出ということで指標を達成しております。校内一般常識テストの平均得点率55%以上ということでしたが、47.7%ということで及びませんでした。

(3)生徒指導関係です。生徒の規範意識・社会性の確立に向けて、身だしなみキャンペーンの実施を活動指標としてあげております。学期に1回です。身だしなみキャンペーンのチェック数が全クラス15件以下ということで、成果指標ですが、チェック数15件以下が21クラス中16という結果になっております。

(4)人権教育の推進関係です。成果指標として意識の向上70%ということで、1年生が91.8%と非常に高い数字になっていますが、本年度は県教育委員会の指定の事業がありまして、例年にも増して取り組んだ成果かと思っております。2学年が63.0%というのが気になるころではあります。

(5)命の教育についてのことです。実施回数等が活動指標としてあげられています。命を大切にすることが向上したという成果指標ですが、いずれも高い数値が出ております。このような教育活動をした結果、改善課題としてとらえているところは、(1)ワンウィークトライアルの活用法、基礎力診断テストの意義も含めて改善が必要ではないかということです。(2)進路関係は4月当初は勢いがあるけどだんだん弱まってしまうため、活動指標自体を検討する必要があるということです。(3)生徒指導は身だしなみ向上キャンペーンの効果的な意識向上の検討、(4)人権教育推進関係でLHRの内容吟味や回数の検討をしたいということ。今年の結果を踏まえてということになるかと思っております。(5)保健部関係の命の教育ですが、年度当初に具体的な計画を検討し、着実に実行したいという反省です。確かにいろいろ取組はされていましたが、そういう反省があったということです。

(2)学校運営等については、地域とともにある学校づくりの推進という項目では、(1)学校運営協

議会について、回数についてはクリアしております。成果指標として学校運営協議会からの具体的な支援ということで2回挙げさせていただいているところです。委員のみなさまからご支援いただいた、さきほどから話題にあがっています藤田委員の講習会や長期インターンシップの事業所紹介をしていただきました。(2)卒業生が地域に定着して地域の活性化に貢献するために、というところで進路関係の活動指標と成果指標です。2月末現在就職内定率100%ということでしたが、12月末現在92.1%でした。

生徒のための教職員組織づくりの推進ということで、アンケートを実施しております。回数については達成しているんですが、結果を踏まえた改善活動は達成できず、課題としたいところです。

働き方改革と言われているところもありましたが、総勤務時間の縮減について成果指標が①～⑥まであげてあります。今年度⑥が追加されました。①が定時退校、②クラブの休暇、③会議の終了についてです。①②は一定できているかと思います。③は年度当初や年度末において60分以内にすすめるのが難しくなっていました。なるべく会議はコンパクトにし、内容を整理して御意見いただくところはいただいて、60分以内に会議を終えるよう今後とも努めていきたいと思っています。④時間外労働の前年度日15%減ということで、こちらの方は減っているんですが⑤1人あたりの年間休暇取得日数が前年度比1日増のところ1.6日減となっていました。やはり夏休みの休暇が取りにくかったことがあったかと思います。なかなか小さな学校ですので、平日休みが取りにくいかと思います。⑥月80時間を超える時間外労働者には産業医さんの面談が必ずありますので、だいぶ減ってきているかとは思っております。大きな課題としてはやはり休暇取得日数が逆に減ったというところだと感じます。改善課題としては、進路関係のことになるかと思いますが、進路関係の活動指標の立て方の見直し、アンケート結果を踏まえた改善をしやすいように、アンケートの内容の精選と見直しを行いたいと考えております。私からは以上です。

(吉田会長)

各分掌の先生方で補足説明があればお願いします。

(濱地先生)

生徒指導です。2月に身だしなみ向上キャンペーンを1・2年生に実施しまして、今21件となっておりますが、あと6クラスもチェックを行いました。6クラスともチェック数15件以下ということで、成果指標は27クラス中22件となり80%以上がチェック数が少なかったというかたちです。ただ、日頃から髪の毛が茶色くなってきたとかありますので、日頃のところでいくと指導する回数は例年通りだったのかと思っています。あまりひどい人はいなかったのかなと思います。ちょっとずつちょっとずつ、生徒は変わってきているのかなと実感しております。

(教頭)

あえていいますと、これは抜き打ちの指導ですので、それがこういう数字っていうのは良かったのかと思いました。予告して「明日指導しますよ」というのではなく、どのクラスに行くかもわからないものなので。

(吉田会長)

他の分掌は補足よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(田中先生)

一番最初にはぐくみたい生徒像があったかと思うのですが、生徒の自尊感情が高まっていると成果とし

て非常に表れていると感じています。1番最初が基礎学力、2番目が地域に関すること、3つ目の項目は自尊感情をもたせるために、というところかと思いますが、白山高校で総じて言うのは、入学当初に自信がない子が多かったというように聞いていますので、そこをケアしてあげて自信を身につけたいなと思います。あと人権活動の分野も、赤塚校長の一番アツい分野でもあります。力を入れているということで成果に繋がっていると思います。

(岩崎さん)

生徒たちが自信をもってきたというのを感じますが、1日の卒業式で名簿を見ていましたら85名の卒業ということでした。入学当初は105名。20名が卒業までにリタイアしているというのは私は大変な問題だと思うんですけども。その大きな原因というのはどういったことでしょうか。

(教頭)

実は今、中学校の先生とお話をする機会がありまして、やはりここへ来るまでが一つの新入生にとっては困難みたいです。1年生の早い段階でかなり離れていくというのが、現3年生ではあったと感じます。今年の1年生は逆に少ないですけども。今言われた卒業を迎えた学年については、特にそんな感じが個人的にはします。入学式は午後ですが、朝に始業式を行うので名松線は1年生だけです。しかし次の日はみんな一緒の電車です。そういうので、最初うまくいかなかったのはあったかと思います。「立地条件」というのは感じますね。ですので、中学校の先生にも「2日目が大事です」と話しています。2日目来れたら1週間来れる。1週間来れたら1ヶ月来れる。ただ次の山はゴールデンウィークですね。来年は10連休になりますね。節目節目で、学校に足が向きにくくなった生徒もいます。1年続けばパターンがわかってくるので、続く生徒も多くなりますね。4月いっぱい学校に足が向きにくい生徒は多かったのではないかと思います。実際生徒に接している先生からお話を伺えればと思います。

(岩崎さん)

入学して4月でこの20名がほとんど来れなくなったのですか。

(教頭)

いえ、4月が多いということであって、節目節目で学校に来にくくなる生徒はやはりいます。卒業した3年生には多かったですが、今の1年生は少ないですよ。

(齋藤先生)

少ないです。年々退学といいますが、去って行く生徒は減っております。

(濱地先生)

生徒指導の立場から、今年辞めていった生徒も何人かいましたので話させていただきます。だいたい辞めていく生徒の特徴としては、学校に興味がなくなってしまっている生徒が多くいます。学校や家庭でトラブルがあり外の世界に興味を持ち出すとちょっと黄色信号かなと思います。よくあるのは、学校を休みがちになって、そこでアルバイトをし出すともう学校に来れない。先ほども話にありましたが、通学に時間がかかったりしますので、そのため学校に足が向かなくなると、こういったパターンがあったりします。実際に辞めていった生徒も、1回トラブルを起こして「先生、学校をどうするか考えるわ」というかたちで一回学校を離れて仕事をする、「この道で頑張るわ」という話をする生徒は、生徒指導をするなかで何人かみました。辞めていくときの方がいい顔している生徒も多いというのが実際感じるところです。わりと生徒指導をしていると「白山高校しか行けやんだんやわ」という声をすごく聞きます。「とりあえず学校行きたかったから」「高校卒業だけはほしかったから」という言葉はすぐ出てきます。

その中で、「3年間か、ちょっと耐えられないかも」という生徒はいました。「頑張っていく」という生徒もいれば「仕事して、学校に行きたくなったら通信などに行こうかな」という生徒もいます。生徒は様々いて、今年の3年生もそういうケースは多かったと思います。実際私もそのとき生徒指導ではなかったので、深いところまでは話をしていませんでしたが、自分の見ているクラスの子は何人かそれで辞めていった子が多かったようなイメージがあります。他にも学校が合わなくて行けなかった生徒も何人かいたとは思いますが、外の世界に興味を持ち出して、という子が大半だったと思います。以上です。

(岩崎さん)

無理に入学したということですか？学校に。

(濱地先生)

何人かいます。「とにかく高校に行きたかった」「とりあえず試験受けたら、受かった」「受かると思っていなかった」という言葉は結構出てきます。逆に、今年の1年3組の授業のなかで、白山高校に入ってイメージ変わったという人は手をあげてと言うと、9割方手が挙がります。ほぼ全員です。「こんなに行きやすい学校だと思っていなかった」と言います。もともと高校に行きたいという感覚よりは、高校に行けたという感覚の方が強かったようです。授業のなかでもそういった発言をする生徒が非常に多いです。どどこ落ちてここ受けた、とか、どこも行くところないからここ受けろって言われたとか。ただ入ってきて良かったと思っている生徒は非常に多いです。

(岩崎さん)

4月が一番難しいということですね。

(教頭)

面接のときは熱く語っておいて、実際に今話があったように、入学してきてとなると「ん？」という感じですね。なかなか足が動きにくかった子もいるようです。

(校長)

入学して、最初は丁寧に丁寧にできるだけ関わるようにさせてもらっているんですけども、どこの高校さんでもそうだと思うんですけども「通学が長くなって」とか「友だち関係が変わってしまう」というのでどちらかという関係作りがあまり上手ではない子が多く入っているような感じもしますので、なかなか関係作りに時間がかかってしまうという。そこを堪えられないと学校を離れていったりしてしまいます。また授業のあり方も小学校や中学校と違うところがあるのかと思います。できるだけ子どもに合わせて授業はするんですけども、ここは絶対しないといけないところだとか、ここまで力をつけないといけないとか、形のところになってくるところに対応しきれないとかあります。やはり中学校と高校の違いですよ。友だち関係、通学、学習あたりには要因があるのかなという感じです。

(教頭)

昔のことをいうのはあれですけども。今年、卒業生は60回でしたよね。私は4回生ですけども、当時は3クラスあったんですが、1名も辞めた生徒がいなかったと思うんですよ。そこらへのギャップというのは非常に大きいです。それはもう、社会も多様化していますし、考え方も違ってきますし、どうにかなるでここへ行けという教育の概念もあるようですが、このままでいいのかなあと感じますね。先生方も、生徒が辞めないようにうまく導いてくれと言っても難しい問題ですし・・・。

(校長)

いろんな気持ちをもって入学してきている子がいるとは思いますが、白山高校に行きたいと思って来て

くれている子もいれば、そうでなくていろんなところ行きたかったけど中学校の先生にここにしろって言われたりとか、受けたけど残念ながら不合格やったもんで白山高校に来たとか、いろんな生徒がいるんですけど、様々な生徒がとにかく白山高校に入学して良かったなと思えるような内容にしていくというのに尽きるのかなあと思います。丁寧に話しかけてもらえるわとか、授業していてもわかるわとか、部活動していても楽しいわとか、そんな教育活動をしていくのに尽きるのかなあと思っています。また、そこらあたりを進めたいと思いますので、御意見をいただければなあと思っております。

(吉田会長)

1つ気になったのでよろしいでしょうか。年休取得率が1.6日減ということで、夏は甲子園等で忙しかったかと思うんですけども、**労協(?)**にひっかかることはないんですよね？労協変わりますよね、来年度。年休取得を言うだけじゃなくでとってくださいに変わる中で、少なからず事業所さんも厳しい人手不足・人材不足となるなかで、我々の会社もそうなんですけども有給がクリアされるんですが。

(教頭)

正直に申しますと、この小さな学校で極力自習を出さないよう授業の振替をしている状況で、担任をしているとなかなか休みにくいだとかの現状があります。例えば今日とかテスト期間中だと午後から休みやすいんですが、普段はなかなかとりにくいです。さきほども申し上げましたが、今年の夏のようなことがなければ、こういうことにはならなかったと思います。あればこういう状態になると思います。あっちもこっちも自習として生徒を自由にするのはいかがなものかと思えます。なかなか年休を取りにくいのは事実だと思います。国レベルだとは思いますが、働き方の抜本的な改革が必要かと思えます。大きな学校ですと時間割変更がしやすいかと思えますが、この学校の規模で自習を出さない用にするとなかなか難しいです。しかし自習を徹底的に減らすとすごい状態になるんですね。休んだら授業が倍返しになります。振替ですので。これやったら休まない方がいいや、というような状況が出てくると思えます。課題が大きいなと思えます。教育現場における働き方改革というのはいろんな課題があるかと思えます。先生方はどうですか。

(齋藤先生)

教務の立場から言いますと、私は本校7年目ですが、来させてもらったときは、私はあんまり感じてなかったんですけど、自習がどうも多かったようです。そうすると自習のクラスに監督の先生が行ってもらうようすがワイワイがあったようで。当時の校長先生から、それはいかがなものかということで、当時の教務に「変更しなさい」という指示がありました。教務の先生が意地になったわけではありませんが、完全に振り替えてもらいました。とても考えてもらったようです。ただ2人でもつTTとか体育とか商業の実習については無理ですので、それはもう担当の先生にみてもらいますけども、単発の授業は無理にでも変更してもらっていたようです。その後にはわかったのですが、自分が病気になったときや家族が入院となったとき、事前にわかってたら振替をしてもらったんですが、めちゃくちゃしんどかったです。病気が治って戻ってきたら、いっぱい授業があって大変ですし、ここまでしないとイケないの？という気持ちが正直ありました。むしろそうすると、授業が薄くなると言いますか…。私は今教務をやっておりますので、この3年どうしてもらっているかという、1年生は分割授業をしていますので、合同でできるときは合同でお願いしています。普段は20人にわけて授業していますけれども、合同で見てもらえるのであれば合同でみてもらいます。進度が違うと難しかったのですが、ここ2年ほど各教科で相談していただいて、内容を調節していただいているので合同も可能になりました。わかるのもバラバラ

だったのですが、それもそろえられましたので、半分ずつ変更というのも考えてもらっています。TTや実習のところは今まで通り1人でみてもらったり、3人のところ2人でみてもらっています。こういう形で、無理して変えてもコマ数的には成立しますが、内容が伴わなければ先生がしんどくなってしまい、良くありません。生徒にも良くありません。ここ2、3年は担当の先生に「無理しないでおこうね」と言っています。無理すると、変更する先生も大変なんですよ。遅くまで残ってたくさん考えてもらってその上に別の出張などが出た場合、ぐちゃぐちゃになってしまいます。生徒も時間割を把握しづらくなってしまいます。そこらへんは工夫をして、年休や出張を行きやすいようにしてもらっています。ただ、難しいですね。

(吉田会長)

なかなか、いろんな事情で難しいとは思いますが。どこの会社でもどこの学校でも一緒だと思うんですけども、考えよという時代ですからね。年間通しての地域交流の話にもありましたが、こんにゃく体験のときなんかでも、当然担任の先生って行かれると思うんです。外部との交流のところで(授業を)振り返っていかたちをとれたらなとも思います。なかなか難しいとは思いますが。ちょっとでも外部講師として来られたら、その代替で休まれるとか、それこそ地域一体型で教育も進めつつ休暇もとれるというのも良いかなと思います。なかなかカリキュラム的にや、教員免許を持っていないとかあると思うんですけども、可能な部分で協力ができたらと思います。

あと、よろしかったですか。ありがとうございます。それでは、次年度に向けた改善策をお願いします。

(教頭)

それでは、本年度の行動計画の評価というのはさきほど報告させていただきました。これを踏まえて、検討させていただいたのが、次年度に向けた改善策というものです。2つの項目に分かれています。

1つ目の方です。教育活動についての改善策ということで、授業に対する満足度が、80%以上になるようにということで、卒業までに基礎学力の伸長している生徒が50%以上を占めるようにする、という9ページの(1)を踏まえた教務的な課題です。それから部活動の活性化ということで、部活動を通じて生活習慣の確立や社会性を育成します。確か、活性化協議会でも部活動のあり方について話がありました。部活動で、強くするだけではなく何を教えるかについて御意見あったかと思います。この2つを課題としてあげました。御意見をお願いします。

(吉田会長)

岩崎さんからもありましたように、途中リタイヤ者に着目していかないといけないと思います。内容を見させてもらおうと授業の満足度アップであったり、部活動を通じた社会性の向上であったり、基本的に適応している生徒に対しては非常に有効的な話であるかと思うんですが、悪い言い方ですが、不適応者に対しては難しい。「不適応ゼロ計画」ではないですが、どういうふうにしたら退学者をゼロにしていけるのかなというのを来年度の改善策としてはいかがでしょうか。そこがないと、活性も難しいと思います。

(岩崎さん)

そういう項目をこれにあげるというのは難しいのでしょうか。

(教頭)

学校関係者評価のところにはいただいた御意見を記載することができます。少し表現が変わるかもしれませんが。改善課題、次への取組報告とありますので、せっかくいただいた御意見をあげさせていただきます。

(校長)

中途退学者が今年3年生の85名が卒業で、約20名が退学というのは割合的には高いかと客観的には思います。それを%を減らすというか、0に限りなく近づけていくためにそんなことをするのか?というのをここに記していきたいと思います。御意見は御意見としてももちろん頂戴しますので、0にしていくために、どうやって生徒の満足感であったり有用感であったりを高めていけるのか、学校としてしっかり目標たてて考えたいと思っております。

(吉田会長)

よろしいでしょうか。次年度に、向けての改善策はこういったかたちでお願いします。それでは、次学校運営についての改善策です。

(教頭)

学校運営についてということで、2項目あげました。生徒のコミュニケーション能力や規範意識を育むために、長期インターンシップの充実についてです。非常に大きな課題なのですが、早くから本校は取り組んでいる伝統ある取組ですので、こちらについてあげさせていただきました。

また、地域に対して積極的に生徒の活動や成果を情報発信するということです。今年は、こちらから発信しなくても、取材等もしていただき、情報発信等ができましたが、毎年は難しいと思いますので、来年度も今年度のように積極的な情報発信をしていこうと考えています。より白山高校の内容を知っていただくために大切なことだと考えています。今年は本当に助かりました。この2点について来年度は取り組んで行きたいと思います。

(吉田会長)

長期インターンシップについては例年の課題ですが、地域で良い体験場所があればまたお願いいたします。

(教頭)

本当に新規事業所については苦慮しているところですので、良い情報があればぜひお願いいたします。

(齋藤先生)

これについて、1点わかってきたことです。来年度一志駅と関ノ宮駅に置いていく生徒が12名ほどいるんですが、1・2組で福祉類型の生徒を除くと50名くらいです。50名のうち12名が外へ出て行くということは、クラブができないんです。説明会のときに、関ノ宮とか一志に行く場合は、クラブができないという説明はしてあるんですが、本人の希望がありますのでクラブをやりながらそちらを選んでいく生徒もいますし、クラブをやりたい生徒が違う所を選ぶんですけども、そうすると自分の所じゃない場合もあります。範囲を広げていくと、クラブを頑張れ頑張れと盛り上げていくんですけど、事業所がないから毎週金曜日はクラブ休まないといけないという意見がきそうな感じがしております。ですので、できれば行って帰って来れるところが増えればという状況です。

(教頭)

名松線を利用して向こうまで行くんですが、帰って来れないんです。事業所自体も不足していますが、非常にこれも悩ましい問題です。

(校長)

お願いには行っているんですけど、なかなか。3社お願いに行っても引き受けてくださるところが見つかったんですけど、近くではないという状況です。ここから出て行って、2時間実習させてもらい帰ってく

るところが一番ありがたいです。こんなところがあるよ、という情報や、送り迎えもしてくれるところがありましたらお願いします。情報があったら少しでもいただけると学校としてはありがたいので、よろしく願いいたします。

(吉田会長)

インターンシップかどうかわからないんですけども、パンを販売することはできますか。白山フランクを売りに行っているじゃないですか。事業所とかいろんなイベントで売るのはなくて、定期的にパンを売りに行きますよとか、作ってしまうというのは。

(教頭)

可能だとは思いますが、営業許可書がいると思います。あれを売るときは臨時営業許可書を保健所にとっていますので…。それが必要なのと、私が気にしているのは、このあたりしか売りに行けないということです。車に乗せていけないので…。

(濱地先生)

実施の仕方だと思うんですけども、インターネットで販売というのはやっている学校はあります。通販とかたちでやっているのは、聞いたことがあります。商業科ではよくやっているんですが、実際に授業のなかで行ってというのは聞いたことがないです。

(吉田会長)

逆を言えば営業活動ですよ。それを逆に受け入れてもらえる事業所がないのなら、こちらから行くというのはどうかと思うんですが。

(教頭)

それをどう運搬するかという問題はあります。生徒と物を乗せて車で行っていいのかといえば明らかにノーです。

(吉田会長)

そういう発想もあるかと思うんですがね、なかなか難しいとは思いますが。

(濱地先生)

共同開発で商店やスーパーに置いてもらっているところはあります。例えば、個人に売りに行くのではなくて、営業で「こういうの作っているんですけど、どうですか」というのはある程度可能かと思います。実際に津商業さんなんかは、野田あられさんと提携して津商のロゴが入ったあられを売っていたりしますので。ぎゅーとら行ったら置いてあります。そういうのなんかはあります。どうしてもという場合はそういう実習を商業科の教員があいていれば、営業の仕方とかを勉強するのは1つの手だと思います。

(吉田会長)

うちも久居農林の生活デザイン科の生徒さんがさおりを使った商品を作っていただいて、施設に届けに行くというのをやっています。我々が毎月それをもって福祉の店に行くというのをやっています。企業や会社とタイアップするのも1つの方法かなと思っていたところなんです。例えば藤田こんにゃくさんとか。こちらからお願いをしに行くだけでは、あかん時期なのかなと思います。商法的なものを考えるのも生徒さんにとっては考える力が備わるといえる気がします。例えば菊を作られている方もみえるわけですよ。これを題材とした商法を考えたり営業活動をしたりというのはどうでしょうか。我々がどうこう言うのではなく、生徒さんも一緒に考えていただくのはどうでしょうか。

(藤田さん)

違う方面で良いですか？ただ勉強して、大学行ってじゃなくて、ここなんかやったら薬草とか、このへんにいっぱい生えている草の中で、乾燥して粉にして薬草を作ることもできます。山野草で天ぷら作ったり、いっぱい食べられるものがまわりにたくさんありますやん。

(坂本さん)

ここ2・3年、天候が異変になっていますよね。5月でしたっけ、雨が1ヶ月降らなかつたりしました。野菜は、水をやったり手入れをしないと育たないです。ですが、野草っていうのは、自分でしっかり根をはって生きていますから、少々のことではこたえません。野草っていうのはすごい力をもっているんですよ。そういうのを勉強したいって言って、去年の6月関西、大阪、京都、神戸、山口県からも総勢60人がみえました。今でも「行きたい行きたい」っていう人が多いんですけども。私が大変になりますので…。

(藤田さん)

このへんに生えている草が、薬になり、食べれるよっていうのを今の子どもたちに今教えてもらわんと。そういう方面の、子どもたちが自分でやれるような機会を作ってあげれば良いような気がします。探せばそういうのが、いっぱいありますよね。私もこんにゃくは、ミラノ万博ってありましたよね。あの時に、7カ国のシェフがうちへ来てくれて、一緒にこんにゃくを作ったりしました。違うときも、学びたいということで体験来てもらいました。20人ぐらいしかうちには入れないけども。探せば、身近なことであるんじゃないでしょうか。

(坂本さん)

それで思い出したんですけども、世界の中で1000人の中から選ばれた山形県の菰野町のアクアイグニスというところでコラボさせていただきました。その方が私の商品を使って、すごくいろんな料理をしてくださったんです。それをみなさんから、また「行きたい」「行きたい」っていう声をいただきます。

(藤田さん)

教えてもらうなら、今の間です。誰か後継者が現れたらいいのと思っています。こんなにいろいろ取り組んでいるんですから。真剣に体に悩んでいる人もいますし。本当にきっかけがあれば、こういうこと学んでいただけるでしょ。

(坂本さん)

これから天候不全が多くなってくると思います。やはりこういうことを知っておけば、何かの役には立つかもしれない。いっぱいそういう材料があると思うので。

(藤田さん)

1ヶ月に1回でも、半年で1回でも、いっぺんそういう体験を計画してみたってください。

(校長)

ぜひそれで1回計画して教えてほしいですね。こちらからのお願いではなく、作っていくっていう発想とは思わなかったもので…。

(藤田さん)

身近なことをもっともっと知ってほしいなと思います。美杉の芋は大阪市場で1番やったよってことを代々聞いているので、それを若い子に少しでも知ってもらいたいです。

(校長)

いろんな御意見いただきました。また、考えてみたいと思います。ありがとうございました。

(教頭)

本当に、いろいろな御意見をいただきましてありがとうございます。今いただいたものを空欄になっている学校関係者評価のところに反映させていただきます。ホームページでも公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(吉田会長)

続いて、協議事項(3)平成31年度学校運営協議会についてです。本年度も委員の皆様には、学校の行事や教育活動等に御参加いただき、様々な後提言をいただきました。その御提言のなかで、来年度への検討課題を早い段階で頂戴しておりまして、各部会のあり方について、御意見をいただいています。つきましては、これまでの各部会のあり方を検証して、来年度、どのようなものにしていくのか、検討をさせていただきます。引き続き、委員の皆様にも、より一層の御提言をいただけるような機会になるよう、考えていきたいと思っております。

これで本年度の学校運営協議会は最後となりますので、最後にお一人ずつ、簡単に一言、お言葉をいただければと思います。

(吉田会長)

では、御意見があればお願いいたします。

(藤田さん)

また、いろんな意味で協力させてもらえると思うので、よろしくお願いいたします。

(吉川さん)

いつも6時から始まるのに、なかなか時間通り来れずすみません。毎年、1人ぐらいは白山から入社してくれるような感じになってきています。2・3年前は白山からなかったですもんね？いろんなところから生徒さんに募集も入るもんですから、その時に、白山高校の入社の方がおらんと寂しいなあと思うところもあるので、結構厳しくなっている部分はあるとは思いますが、なんとか学力を備えていただいて、また毎年来ていただけるようになるとうれしいと思います。引き続き微力ですけど享禄させていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

(西村先生)

白山高校の活動について、部会を通していろいろ教わることもあり、それは中学校の教員や生徒に伝えたいと思いますので、あり方を検討されるということですけども、こういう機会をぜひとも設けてもらえるといいかなと思います。

(吉田会長)

平日の昼間はなかなか出にくいかもしれませんが、手作りこんにゃくを見てみたくて。始められたころから月・金勤務に変わってしましまして。なかなか見る機会がないのですが、土日になりますとまた学校が休みなので大変になってきますよね。

(藤田さん)

毎回参加できなくて本当に申し訳ないです。イベントが重なったりするとなかなか来れませんので。今(土砂崩れの影響で)遠回りなんです。八知出てくるのに20分かかるんです。帰りも20分かかるでしょ。今年いっぱい通れるようにはなるんですけどね。

(吉田会長)では、よろしいでしょうか。それでは、協議事項(4)その他に入ります。

(校長)

その他の方で1つお願いします。時間もきていますので、簡単に説明させていただきます。「信頼される学校であるための行動計画」ということで、はじめの方に書いてあるんですけども教職員の不祥事が三重県でも随分発生しておりまして、わいせつ行為であったりとか、盗撮であったりとか、万引きであったりとか、最後には校長までも旅費の不正受給があって、三重県教育委員会としてもこのことを重大事案であるにとらえ、各学校の方で校長が行動計画を作ってしっかりコンプライアンスの取組を進めなさいということで白山高校として作成いたしました。基本的な考え方につきましては、平成27年に教育委員会が出した信頼される教職員であるためにというところから引用しました。具体的な行動計画として、3つの柱、「不祥事の根絶」「働きやすい職場作り」「相談しやすい環境づくり」をばくっとした書き方なんですけど、絶えず自分をチェックすることが大切かと思っております。そういった機会を作ること、また職員同士が気軽に話し合える・相談できるような環境を作ること、こういう大きな3つの柱で取組を進めたいと考えております。こんな形で作成しましたので、学校外の方にも御意見をいただきたく思いましたので、今回配付させていただきました。また、今日は時間が限られておりますので、いつでも結構でございますので、もっとこんな観点が必要なのではないかとかこんなことがあれば、というのがあれば御意見をいただきたいと思っております。

(吉田会長)

ありがとうございます。これについての御意見がありましたらお願いいたします。

先生とあれども、人なんですね。当然人やで過ちもございまして、当然そういう方向にいつてしまうのはストレスがあるかと思っております。正しいとは絶対言わないですが、逆にこんなことがあったからルールで、ルールでとってしまうと助長してしまうかもしれませんので、なんとか(2)(3)を重点的に取り組んでいただいて、相談しやすい、働きやすい環境を作るのは本当に大切だと思っておりますので、よろしく願いいたします。あと、よろしいでしょうか。

そうしましたら、特になければ終わりたいと思っておりますので、最後に連絡事項をお願いします。

(教頭)

連絡事項の(1)です。次年度の日程について事務局としては、5月頃としか現時点では言えません。県教育委員会や関係機関と調整させていただいた上で、委員の皆様には改めて御案内申し上げたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(吉田会長)

連絡事項(2)その他ですが、ありますか。

(教頭)

私の方からはありません。

(吉田会長)

それでは以上をもちまして、第8回学校運営協議会を終了します。会議の進行について、御協力いただき、ありがとうございました。